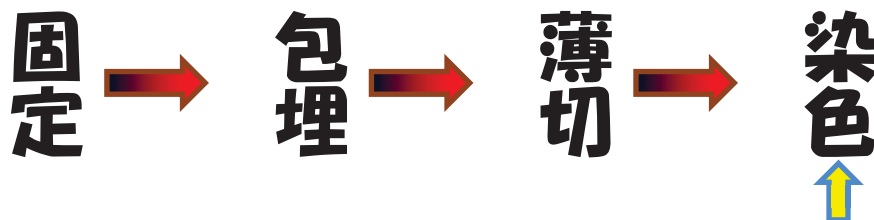


組織標本の作り方 [第四回]

前回→<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000146627.html>

組織標本の作り方，最終回です。

最後の工程は「染色」です。



最後じゃね!

「染色」は、「薄切」で作った組織切片を，様々な染色液で染めていく工程です。当部門では通常，ヘマトキシリン・エオジン染色（HE 染色）を行います，組織，病変によっては他の染色法を用いることもあります。今回は HE 染色の紹介をします。



染色用の試薬です。大きく分けて，脱パラフィン（パラフィンを溶かす），染色，封入（染色した組織を保存する）といった工程に分かれます。



一晩乾燥させた切片を染色用カゴに並べます。



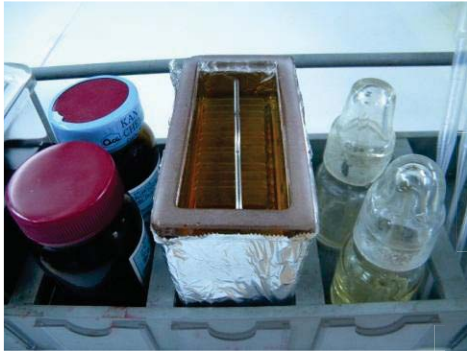
染色スタートです。まず，切片のパラフィンを有機溶剤（キシレン）で溶かします。



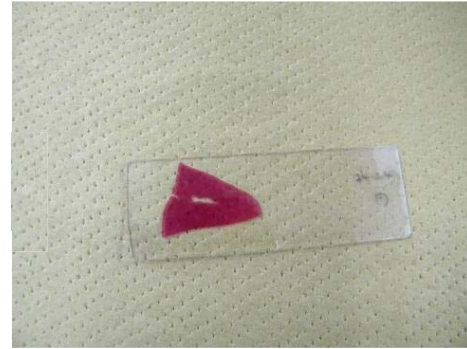
一つ目のヘマトキシリン染色液に浸けると



青紫色に染まりました。



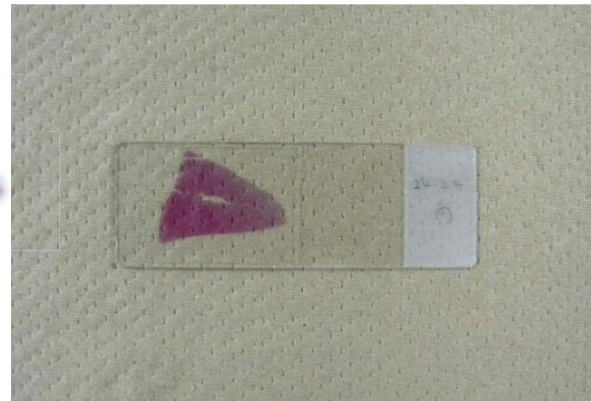
次にエオジン染色液に浸けます。



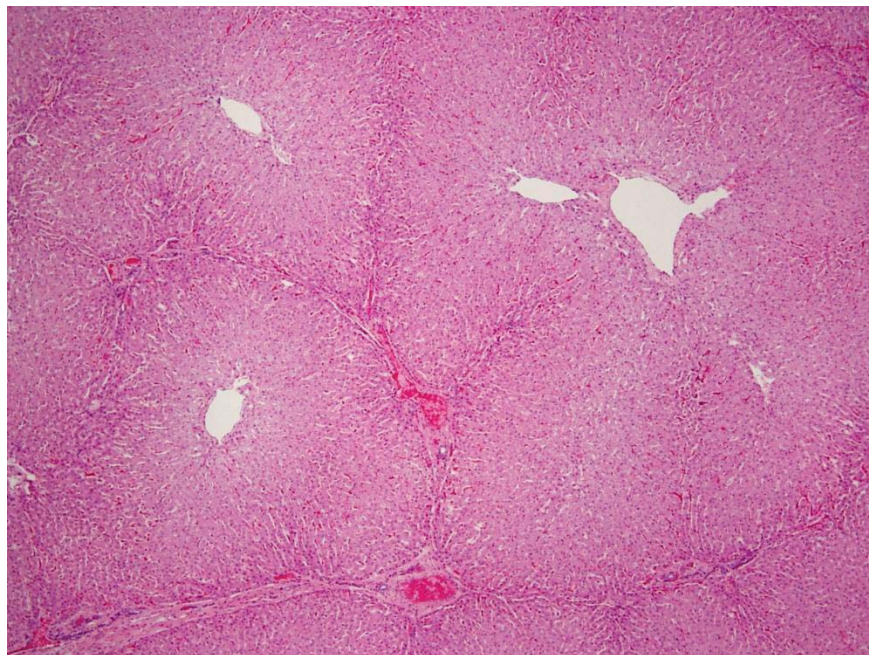
赤く染まりました。



最後に封入剤とカバーグラスとで封入していきます。



これで組織標本の完成です。
この状態で長期間の保存が可能です。



今回作った切片(牛の肝臓)を顕微鏡で40倍に拡大するとこのように見えます。

4回にわたって組織標本の作り方の紹介をしてきましたが、実はここまでが準備段階で、病理検査はここから始まります。炎症や変性など、よくみられる病変から、腫瘍のような、めったにみられない症例まで、教科書や文献を調べながら診断していきます。

牛白血病など、病理検査によって全部廃棄になる疾病もあり、検査員の経験、知識で合否が決まります。

食肉検査がある限り、病理検査は続くのです。